

(様式第1号)

## 自己評価及び外部評価結果票

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170300521		
法人名	株式会社 ライフサポートNEO		
事業所名	グループホーム きぼう原古賀センター		
所在地	佐賀県鳥栖市原古賀町854番地		
自己評価作成日	令和4年3月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp">www.kaigokensaku.mhlw.go.jp</a>
-------------	--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和4年3月31日	外部評価確定日	令和4年5月9日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>.グループホームの特徴として挙げられる個別の関わりを重視し、各入居者様の特徴や慣れ親しんでこられた暮らしに合わせて、柔軟な対応を行いながら家庭的な環境を提供しています。介護計画書は定期的に入居者様の現状を職員全員で把握した上で、生活歴や生活嗜好、個性や思い等全体像を探る事により、個別性を尊重したプランの作成とケアの提供に努めています。職員が入居者様と関わりを持たせて頂く時間を設けて信頼関係を築き、入居者様が感じられている思いを受け止め、ケアに活かせるように職員全員で考えながら、日々のケアを行っています。季節感を感じられる外出やイベント事を毎月開催するように努めており、洗濯物のたたみや縫い物等に参加して頂き、生活リハビリ、または、生活歴に合わせた日常の提供にも努めております。生活の中で一つでも多くの自己決定をして頂けるように入居者様の意志を尊重しながら介護させて頂いています。言葉では、表現できなくなられた方に関しては、表情を観察しながら、「入居者様の身になって、自分がされて嫌な事は、入居者様にはしない。」と言う思いで、職員全員でより良い介護や入居者様の沢山の笑顔の実現に向けて努力しています。</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>創立14年。近くに小学校、病院、歯科、薬局があり住宅に囲まれ、有料老人ホーム、小規模多機能と並び事業所がある。独自の理念はなく「お客様の身になって言葉に耳を傾けお客様と共に考え行動する」を経営理念、行動理念、人事理念があり、大きくトイレや事務所に掲げている。この理念はカードにして職員に配布し、名札に入れ意識付けられている。退職の際にはカードは返還する程大切にされている。3方よし「名前よし、職員よし、会社よし」を目指している。管理者は勤務して3年になるが職員は全員資格があり、永年勤務の方もあり働き易いと言う。外部評価は質の向上、業務の向上の為と受け止められている。</p>
---

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内やグループ会社の会議や研修等の開催時には、必ず唱和し、理念の確認を行い、理念を念頭に置き、日々のケアを実践している。	職員は4つの理念のカードを名札に入れ身近に感じ理解し、常に意識して介護に当たっている。唱和は行っていないがトイレや事務所に大きく掲示されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者様と散歩にお出かけした際には、地域の皆様と挨拶を交わしたり、お話をしながら、交流しております。また、行事にボランティア団体様等に協力を賜り、披露して頂くなど積極的に地域との交流を図っている。	自治会に加入し、回覧板で町内の情報は得られている。現在コロナ感染で交流はないが、以前は地区のボランティアの演奏会等が行われていた。事業所の行事には案内状を配布している。帰宅願望の方もあり、住人に迷惑を掛けたりする時には職員が臨機応変に対応出来ている。コロナ禍が落ち着けば町内の行事に出かけ交流を始めたいと思っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方の介護や、家庭での介護技術などいつでも相談を受け付けている旨を地区班長にお伝えしている。また協力医の紹介で地域の方が、相談に来られることもあり、地域貢献に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催し、苑行事や計画の報告を行っている。また、毎回議題に基づき、ご家族や包括職員、区の役員様と入居者様と協議を行い、ご意見いただいた内容は、会議等で、職員間で、共有や協議し施設運営に活かしている。コロナの状況も踏まえ書面での開催も余儀なくされることもある。	運営推進会議の参加を家族全員に案内を出しているが遠方の方もあり、コロナ禍で参加者は少なく書面会議となっている。利用者、行事の報告や計画の報告を管理者が作成している。勉強会やアンケートについて職員間で協議したことも報告書を作り、ホームの便りと共に手渡し、意見や要望を聞いている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域運営推進会議に出席して頂いている、包括職員が保険者の広域連合職員という事もあり、相談等連携が可能となっている。また、生活保護者が入居している事もあり、市役所の生活支援係とも色々な相談やアドバイスを頂いている。	生活保護の方の入居もあり手続きの際には出向いて担当者に尋ね、アドバイスを受けている。空き情報の交換や、職員の補充等の相談も出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に夜間以外は、施錠しておらず、帰宅要求や散歩等の外出を希望される方には、事故等の予防の為、安全確保し付き添っている。また、身体拘束廃止委員会の開催を3か月に1回の頻度で実施し身体拘束に関する知識を全職員が持てるように努めている。	入居時に身体拘束について家族に説明され、拘束は行っていない。外出願望の方もあるが事務所から様子を見守っている。ストレスを無くし、優しい気持ちと余裕を持ってケアに当たる等、今後も拘束しないケアに取り組めるよう工夫されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について入居者様に対して日々の言葉使いから、尊厳ある言葉遣い、丁寧な言葉遣いを行うように意識づけを行っている。また、高齢者虐待を発見した際のマニュアルもあり、通報体制の把握も職員と共有している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員の中には、権利擁護の研修に参加した職員が会議等の勉強会において、学ぶ機会を設けている。また、入居契約時に成年後見制度の情報の説明を行いお客様とも共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、解約時には、十分に説明を行い同意を頂いている。疑問点や不安点は、苦情相談窓口の説明も行いいつでも対応出来る旨もお伝えしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1度の運営推進会議の際にご意見をお伺いし反映しています。また、施設玄関にご意見箱を設置して、ご入居者様やご家族様のご面会時等のご意見もご要望に沿う様対応を行っています	意見箱はあるが利用されていない。これまで面会は多かったが、コロナ禍の為短時間の面会中での意見は大切に聞いている。面会についての意見が多い。週2、3回「短時間、食無し」と決め予約を取っての面会とされている。担当者が毎月便りを作成し、請求書と近況を添え、アンケートの報告と共に家族に配布されている。家族からは1年近く面会出来てないが事業者からの細めな連絡で状況が届き家族の安心になっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議を毎月1回開催し、代表者や管理者は職員の意見を聞き、個別でも随時意見や提案を聞く機会を設け反映しています。	会議に出された意見についてはその都度話し合い、出来る所から改善されている。職員は仕事の事やプライベート等何でも相談出来ている。シフトについては職員が働き易い方法で話し合い、変更され仕事に支障なく調整されている。管理者は職員に有資格者があり、永年勤務の人が多く前向きな職員に恵まれていると言う。利用者や職員のコミュニケーションは良好である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境作りを心掛け、職員の希望も盛り込みシフトの作成も行っています。給与に関しては、頑張った職員に反映される評価システムを年2回行っており平等に評価されています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内で研修の機会を設け、毎月議題に沿い会議の際に研修や報告を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が地区のグループホーム総会の役員をしていたことから、ネットワークが現在も良好で訪問や電話等で情報交換しサービスの質の向上に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様一人ひとりの担当を決め、信頼関係づくりに努めています。また、アセスメントを取りながら思いを傾聴することでご本人様の安心を確保する関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご相談の段階から、ご家族様が困っている事や不安や要望をお聞きし一緒に解決に向けて話し合いを行い、関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	同一敷地内や近隣に他サービスのグループ会社があり、よりニーズに合った提案が出来るようになっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを図り、心身状態の変化に配慮を行い、楽しく安心した暮らしを送る事ができるよう支援を行っています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などでご家族様の思いや近況などを伺い、ご本人様とご家族様の絆を大切にしながら共にご本人様を支えていく関係を築いています。 コロナの状況もあり、都度いろいろな制限は儲けさせていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別レクにて馴染みの場所に外出を行うなどの支援に努めていこうと思っております。また、近隣の協力医が入居者様との関係が古く、受診の際でも関係が構築できている。	コロナ禍の前は面会は多く、お茶の接待もしていた。お墓参り、病院受診は家族の対応で、帰りには自宅付近、懐かしい場所までドライブを兼ね遠回りされる事もあり、気分転換になっている。現在外出は受診のみである。近くの協力病院まで歩いて行き、病院の待合室で家族との面会が出来る事もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や状況に応じた席割を行い、気の合う人との関わり合いが増えるような支援に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了しても、問い合わせ等により相談や支援できる様努めていきます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個別にゆっくりと向き合える時間を設けご本人様の希望や思いを把握するよう努めています。意思の疎通が困難な場合は、ご家族様に相談し、ご入居者様本位に検討しています。	職員は担当制である。食後、風呂、眠れない時等に誕生日や昔話を聞く中でつぶやき、動作、表情等小さな変化に気を付け申し送りノートに記録される。残存機能を活かし、やり過ぎないように支援されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に詳しくお伺いをし、面会時や担当者会議にてご本人様やご家族様に聞き取りを行いこれまでの暮らしの把握に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご入居者様の残存機能の把握を行い介護計画に反映が出来るよう、一人ひとりの現状把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画期間に応じ定期的に見直しを行っており、ご本人様やご家族様と話し合いそれぞれの意見やアイデアを反映し現状に即した介護計画書が作成できる様努めています。	担当者会議に今は家族の参加はないが、担当者は遠方の家族も含め、利用者の意見を聞き、アンケートの中から思いを得ている。申し送りノートを参考にその時々様子に合わせ計画されている。介護計画に変化がある際には家族にも報告されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録の記入に関して研修を行い介護計画に沿った援助内容や見直すポイントを記入し、定期的にカンファレンスを行い実践や介護計画の見直しに活かせるように検討しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対応し、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の病院に通院支援し交流の時間を設ける様に支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご入居者様は以前からのかかりつけ医や事業所の提携医をかかりつけ医にされており、事業所はそれぞれのかかりつけ医と良好な関係にあり適切な医療を受けられる様に支援を行っています。	かかりつけ医で診療を受けている利用者が多いが受診状況に応じて変更も出来る。地域に密着した病院、歯科、薬局が近くにあり日光浴、外出を兼ねて毎日通院される方もある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員や医療連携看護師に状況報告を行い、常に指示や助言を受けられる様に支援を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関が多数あり、入院時の付き添いや面会等で医療機関との情報交換や相談に努め安心して治療を受けられる様に支援を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所としては、終末期ケアに取り組んでおり、ご入居者様が重度化した場合のあり方については、ご家族様と早い段階から話し合いを行い事業所で出来る事を十分に説明しながら方針を共有しています。	重度化、終末期に対する方針を入居時に説明されている。看取りの経験はあり、体制も出来ている。容態の変化の際にはその都度話し合い、事業所で出来る限りの事を支援されている。お見送りの後にデスカンファレンスを行い、後悔しないように振り返る時間がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	最小限準備		



自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練を実施し災害時のマニュアルも都度整備しております。、今後は地域の方にも参加もして頂けるよう、声掛けを行うようにしていきます。	年2回夜間想定計画があり、消防署へ派遣依頼をしたがコロナ禍と重なり、消火器の使い方、設置場所の確認等の自主訓練を行う。避難場所は家族にも伝えられている。地震マニュアルを作成し、転倒防止をしている。現在地域の参加はないが、いざという時、近くの施設から応援はあると思われる。地域の参加も大切であり、今後お願いされる予定。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員はご入所者様に対し、敬い笑顔で接する様努めています。ご入居者様一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応や言葉かけを行う様心掛けています。	法人、事業所で職員の接遇の研修には全員参加している。言葉使いにも注意し、大声や声のトーンにも気配りされている。職員の言葉使いや行動が気になる時は管理者が注意されるが、会議の時にも職員に向けた注意がされる。方言も上手く使い利用者も理解が早くよりよい関係が出来ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	カンファレンス会議の際に、ご本人様の思いや希望が優先されるように働きかけており、日常生活の中でも自己決定できる様な支援を行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大まかな流れはあるが、個々のペースとニーズを尊重した支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1度、出張サロンがあり、ご入居者様に確認を行い希望に沿った利用が行われています。またその他にも起床時や外出の際は寝癖や目やに等、整容に注意しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節やイベントに合わせたメニューを提供したり、入居者様のリクエストも取り入れるように心がけています。またお誕生日会や食事レクリエーションでは、ご入居者様のリクエストに応え全員で参加し実施しています。	食材は外注で、ごはん、味噌汁は作っている。利用者に合わせ食べ易い形態にし、完食されている。味が濃い時は汁物で塩分等の調整をされている。レクリエーション担当者があり、誕生日会には職員と利用者と共にケーキを作り、食べる等楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量も日々記録をし健康管理に活かしており、入居者様の状態に合わせた、食事形態でも提供するように心がけています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご入居者様個々の残存機能に応じた声かけや歯磨きの介助、義歯洗浄口腔ケアを行っており、訪問歯科との連携も図っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄記録を記入し、個人のタイミングに合わせたトイレ誘導を行っています。また排便困難時にはトイレにて腹部マッサージを行い排便を促す環境作りを支援しています。	一人ひとりの排泄パターンに沿って誘導されている。利用者の自立を目指し、残存機能を活かし、出来ないところを手伝いし、なるべくトイレでの排泄を支援している。夜間のみポータブル使用の方もあり、居室内の様子がわかるように人感センサーで管理されている。機能レベルは下がってくるが衣類の上げ、下げが出来き、自分でトイレに行かれる方もある。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は消化の良い物や調理に工夫して提供しています。また医療機関と調整を行い薬での対応も行っております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回入浴でき、曜日は決めているがご本人様の要望があれば、毎日でも入浴を楽しめる環境を整えています。	羞恥心に気を配りながら衣類の着脱の出来る方はそっと見守り、入浴を楽しめるように入浴剤を使っている。入浴を嫌がる方には、時間や話題等で気分転換し誘導されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自立度の高い方は、ご本人様の意思を尊重し見守りを行っています。ご本人様で判断が困難な方は、職員がベッド臥床介助を行い休息の時間を設ける様支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に看護職員と薬の情報を共有し、症状の変化については医療機関に情報提供しながら服薬の支援を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お盆拭き・洗濯物たたみや手芸等、それぞれ入所者の生活歴や趣味を活かした支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣や敷地内散歩を支援している。普段は行けないような場所でも、ご本人様やご家族様のご要望をもとに行先を決め、外出や外食レクリエーションの企画で実現できるように支援を行っています。	レクリエーションの年間行事はあるがコロナ禍の為制限されている。近くの病院へ日光浴と散歩を兼ね通院されている。家族の協力で自宅へ行ったり、病院の帰りにドライブを楽しまれる。春はウッドデッキから朝日山の桜を見物したり、四季折々の景色を眺めお茶の時間を楽しまれる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は職員管理しているが、買い物に出かけた際はレジにてご本人様が支払い出来る様に支援を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される際は対応を行っています。個人で携帯電話を使用されている方も対応させていただきます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下は安全性に配慮しシンプルにしており、共用空間では窓の外の景観により季節が移り変わる様子が眺められるようになっています。	掃除は職員がされる。廊下は障害物も無く安全である。食事のメニューも掲げてあり、台所から料理の様子や匂いも感じる事が出来る。お風呂は台所の近くにあり、様子を伺い、見守られている。テレビ、ソファで思い思いに過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合ったご入居者様同士で過ごせる様、お互いの関係にも配慮したテーブルの配置を行い、ソファも設置する事で、少し距離を置けるようにと皆様が思い思いに過ごせる様な空間作りを行っております。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様やご家族の好みにお任せしているが、使い勝手が悪い等の要望があった場合は職員が配置換え等を行い、馴染みの物や思い入れのある物を置いて、ご入居者様が居心地良く過ごせる様工夫を行っています。	居室はリビングから見るとコの字型になっており、利用者の動きが観察出来る。居室は職員と共に整理整頓されている。畳の居室もある。転倒リスクの高い方は布団で対応し過ごし易く配慮されている。畳の居室を希望される方は空きを待ち転室にも対応される。利用者の持ち込みは自由であり、テレビ、椅子、鏡、お仏壇等、また感染予防対策としてご家族から空気清浄機の持ち込みもある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで障害物なく動ける様にしていて、手すりも多く設置していますので、残存機能を生かした作りになっています。		

**V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)**  
**※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。  (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない